

# 「写経」マニュアル

身と心を調え写経することによって静かに落ち着いた時間を過ごせば、心も落ち着きリフレッシュすると同時に、ほとけさまのみ教えがすっーとその人の中に入ってくるのではないのでしょうか。

## ■準備

香炉、線香等のお香、写経用紙や手本、机は必須  
必要に応じて筆、硯、筆ペン、万年筆、椅子、口をすすぐための紙コップ

- ・室内を整理して綺麗にしておきましょう。
- ・筆で書く場合、硯や筆が人数分お寺でそろえられない場合は、参加者に持参して頂いてもよいでしょう。墨は水から磨るのが一番ですが、場合によっては墨汁を使用してもかまいません。筆ペンや万年筆での写経もかまいません。（墨汁や筆ペン等の使用はダメという考えもあるようですが、「ありがたいお経を写させて頂く」ということを一番に考えると、様々な条件下では必ずしも硯で磨って筆で書くことに固執することはないと思います）
- ・墨が畳にこぼれるのが心配な場合は、こぼれても大丈夫な敷物を敷いておきましょう。
- ・椅子でしか写経できない方の人数は、前もって確認されて準備しましょう。
- ・お香は心の落ち着く香りのよいものを焚いて下さい。
- ・必ずしも阿弥陀仏像等をおまつりする必要はありませんが、おまつりして頂ければ心が落ち着き、信仰心が更に培われることでしょう。
- ・袈裟や数珠をお持ちの方は持参して頂きましょう。

## ■写経の仕方

1. 手を洗い、口をすすいで身を清めましょう。（塗香なども良い）
2. 香をたき、室内を清めましょう。ここで、僧侶より写経するお経について簡単に解説されれば良いでしょう。
3. 墨を磨り、心をしずめましょう。（筆ペンや万年筆等の場合は、しばらくの間目を閉じ、心の中でお念仏をして心を落ち着けてもよい）
4. 合掌し十念。（場合によっては3と4を入れ替えてもよい）
5. 浄写（至心に写経する。会話はできるだけ慎む）
6. 終わりに「為」の下に願文を記します。  
故人の菩提を願う時 「為 （ 故人の戒名 ） 菩提」  
先祖代々の供養の時 「為 （ 家名 ） 家先祖代々 供養」  
自分の功德にしたい時 「為 （ 自分の戒名 または俗名 ） 逆修」

但し、写経そのものが目的の場合は、願文は省略してもかまいません。

7. 日付と写経された方（願主）の名前も書きます。

8. 書写が終われば、まだ写経中の方もありますので、書いたお経は黙読して下さい。その後合掌して小さな声で十念を唱えます。

9. 墨やインクが乾けば、みんなの写経をまとめて本尊様に奉納致します。

◎奉納後の写経はお焚き上げをされれば良いでしょう。

## ■注意点

1. 書写した写経はお経等が書かれた尊いものですので、ぞんざいに扱うことのないようにしましょう。

2. 正座、椅子のいずれの場合も、身体に無理のない姿勢でかまいませんが、できれば背筋を軽く伸ばし、肩に力をいれない自然体な姿勢がよいでしょう。ほとけさまの教えを写させて頂いているという気持ちがあれば、自ずと姿勢ができてまいります。

★ホームページに掲載しております「一枚起請文」等の写経用紙は、写経用紙に手本が薄墨のように刷れるタイプのもです。印刷した用紙に直接お経をお書き下さい。

インクジェットプリンターやレーザープリンターでA4やA3の用紙に印刷してお使い下さい。薄墨色の濃さもお選び頂けます。「薄い」タイプのもは、印刷しないと読みにくくなっております。

「濃い」タイプ → インクジェットプリンター向き

「薄い」タイプ → レーザープリンター向き

注意： モノクロレーザープリンターで印刷する場合は、機種によっては「写真モード」等にしないと黒字で印刷されてしまいますのでご注意ください。

ご使用は無料ですが、再配布等は禁止とさせていただきます。